

効率的な森林施業の促進

～低コストで生産性の高い列状間伐の推進～

日高南部森林管理署

【現状・課題】

当管内では急峻な地形や路網整備状況などに起因して搬出間伐が行えない現状にあります。

近年、森林に対する意識も木質資源として利用する森林所有者の間で高まっています。

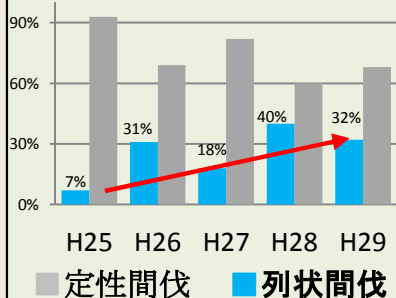
地域の木質バイオマス発電向けのチップ生産工場の稼働状況では、工場着の原材料で、H28年を100%として、H29年では158%と増加傾向にあります。

利用期に達した人工林の森林資源の活用を進めるため、搬出間伐の定着を目的とした取り組みが必要です。

【取組の成果】

高性能林業機械と路網整備を組み合わせた搬出（列状）間伐の技術・知識を高め、森林所有者等にメリットを理解し不安等を払拭してもらうため低コストな列状間伐の情報提供を行ってきた結果、列状間伐についての理解が深まったほか、H27年の18%からH29年において32%と間伐面積の増加する結果が得られました。

日高南部署管内の間伐の実施割合



【平成30年度の取組結果】

①搬出（列状）間伐の定着とコンテナ苗の活用

○森林施業技術研修会

・日高地域におけるコンテナ苗の活用と木質バイオマスとしての利用を視野に入れた搬出（列状）間伐が促進されることを目的に、森林所有者、行政関係者、約60名の参加のもとに、平成30年10月9日に開催しました。

・国有林と日高振興局森林室が連携し、国有林の植栽地において、コンテナ苗の植付を改良オーガを実際に使って植栽体験を行いました。

・民有林では、木質バイオマス利用を意識した列状（1伐3残）間伐施業地において一般材と原料材の集荷状況について紹介しました。

・参加者からは、「伐採列を搬出路として活用できることから支障木・根株などを集積できるメリットがある。」「全木集材で発生した枝条も資源として、地域の木質バイオマス工場に、一般材以外の木質資源が受入可能なことから収入の増加になる」などの意見がありました。

・7月12日と10月9日（研修会）で実施したコンテナ苗に関するアンケート図1では、改良オーガの活用は、「植栽作業の軽労・効率化に貢献できる」との意見がありました。

②民有林の搬出（列状）間伐林分の調査

・森林所有者には、列状間伐は、定性間伐に比べより多く林内の大径材が伐られ、主伐期における一般材比率に影響がでるとのイメージがあることから、町有林の列状間伐後の林分状況を調査（11月13日、14日、28日）伐採木の径級分布を検証する取り組みを行いました。

また、調査データを取りまとめた資料は、林業関係者の会議に情報提供として説明した。

参加者からは参考に値するとの評価を得ています。

【今後の目標】

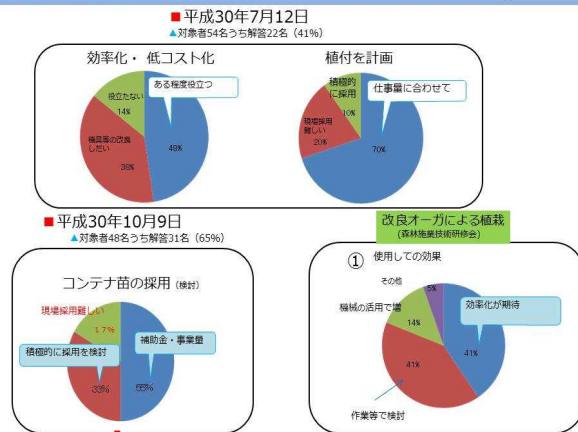
森林所有者等と連携し、搬出（列状）間伐と木質資源の利用推進、コンテナ苗の活用による低コスト造林作業の普及に取り組みます。

森林施業技術研修会の様子

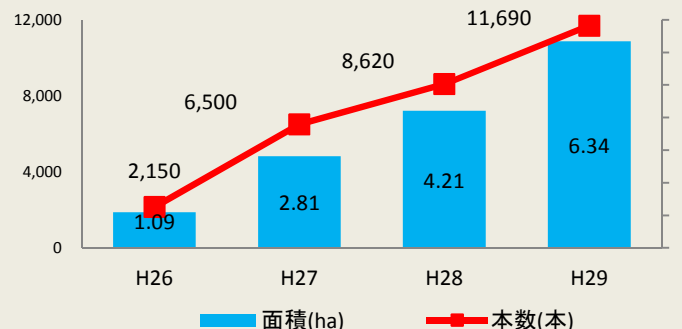


図1 コンテナ苗に関するアンケート調査

「コンテナ苗を活用した造林作業に関する」アンケート結果について
(造林作業の低コスト化に向けて) ～一部抜粋



コンテナ苗使用実績



【今後の取り組みで目指すところ】

低コストでより作業の安全性が高い列状間伐やコンテナ苗を活用した低コスト造林作業について、

・列状間伐実施率の低い地域の地域特性について林分調査を実施し分析。

・国有林内で、伐採とコンテナ苗を使用した造林の一貫作業の事例を紹介。

これらの取り組みをとおして、地域の林業関係者等と連携して普及を目指します。